

# 小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧

1993年度



1994年3月

富山県小杉町教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、平成5年に小杉町教育委員会が実施した、埋蔵文化財発掘調査及び、分布調査の概要をまとめたものである。
2. 本書に収録の発掘・分布調査は平成5年3月から平成6年1月末までに調査を行ったものとした。
3. 主要地方道富山・戸出・小矢部線建設に伴う東山II遺跡の発掘調査は、小杉町教育委員会が主体となり、山武考古学研究所（所長 平岡和夫）調査員の協力を得て実施した。調査の担当は、肥田順一・丸山雅美が行った。また、小杉伊勢領遺跡は、肥田順一の調査協力を得た。
4. 埋蔵文化財調査にかかる事務局は、小杉町教育委員会におき、調査事務を文化財保護係長堀川辰幸が担当し、生涯学習課課長河畠 淳が総括した。
5. 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、調査から報告書作成に至るまで次の方々や諸機関から教示・協力をいただいた。記して謝意を表したい。

安念幹倫・伊藤隆三・上野 章・片岡英子・高梨清志・橋本正春

開成測量株式会社・伸光株式会社・富山県高岡土木工事事務所・山徳不動産開発株式会社・有限会社河上金物店・太閤山観光株式会社

6. 調査を実施した遺跡の出土遺物は、小杉町立太閤山小学校において整理を行い、遺物・原図・写真類は小杉町教育委員会が保管している。
7. 第1・2・3表の遺跡名下の番号は富山県埋蔵文化財包蔵地地図による遺跡番号である。
8. 本書の編集・執筆は原田義範・稻垣尚美が行った。

## 目　　次

1. 平成5年度の概要	1	水蔵場G(No.2)・H遺跡(No.3)	9
2. 分布調査	2	天池C遺跡(No.4)	10
3. 試掘調査	2	東山II遺跡(No.5)	12
加茂社遺跡(No.1)	3	5. 普及・活用	14
表野遺跡(No.4)	3	(No.は、一覧表の番号を示す)	
HS-04遺跡(No.2)	4		
丸山古墳(No.3)	4		
4. 本調査	6	表紙写真是、鷺塚村中遺跡B区より検出した井戸(S E 90)である。	
鷺塚村中遺跡(No.6)	6		
小杉伊勢領遺跡(No.1)	8		

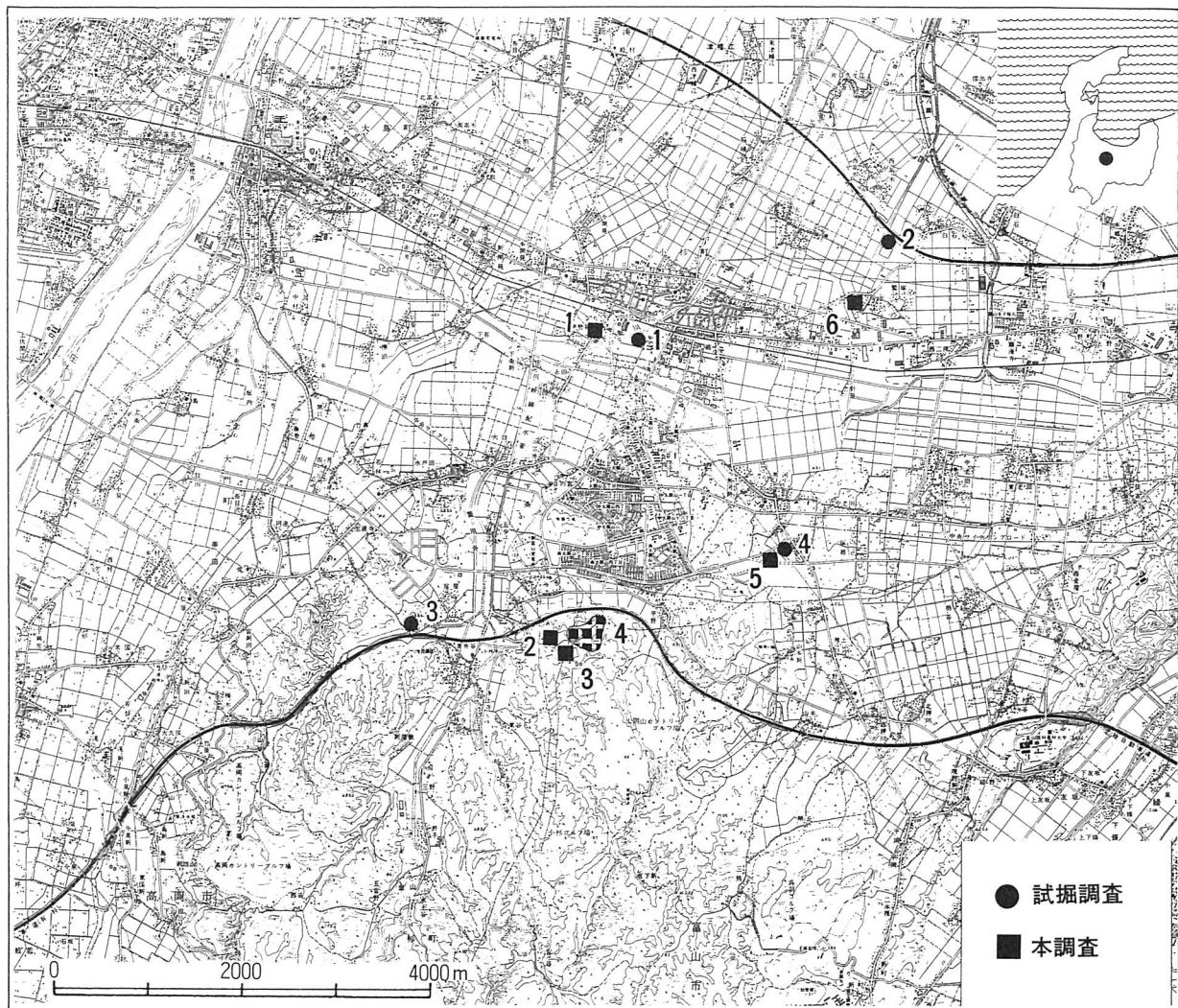
## 1. 平成5年度の概要

平成5年度に小杉町教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布調査5件、試掘調査4件、本調査8件であった。丘陵部の調査は、昨年に引き続き小杉インターパーク造成事業に伴う調査を行い9月をもって完了した。平野部の調査では主要地方道の改良工事のほか、民間企業による宅地造成に伴う調査を行った。

調査体制は、町の調査員2名のほか、千葉県に事務所をもつ山武考古学研究所の調査員1~2名の協力を得て道路改良工事1件、宅地造成1件に伴う調査を実施した。

このほか小杉町内においては、小杉流通業務団地内遺跡群内のNo.15A遺跡の本調査が県教育委員会によって行われた。

平成6年度は、丸山古墳・赤坂遺跡の調査が予定されているほか、大規模な試掘調査も予定されており、大型開発に伴う町体制の充実が必要となっている。



第1図 調査位置図(数字は調査一覧表の番号を示す)

## 2. 分布調査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地内や付近で行われる公共事業や民間の各種開発に先立ち、事業者と協議して遺物の分布状況や遺跡の範囲を把握するため事前に現地確認をする。また、遺跡の所在が予想される地域での大規模な開発に対し、同様の確認調査をしている。

これまで明らかになっている周知の埋蔵文化財包蔵地は、小杉町全図（1万分の1）に記載され、町教育委員会の窓口に備えつけてある。分布調査で新たに発見された遺跡は登載され、周知の遺跡としてその後取り扱われる。

No.	名 称	所 在 地	原 因	調査期間	対象面積	種 別	遺 物
1	小杉伊勢領遺跡 (381027)	三ヶ2241外	宅地造成	H.5.6.4 (延べ1日間)	3,800m <sup>2</sup>	散布地	弥生土器
2	三ヶ	三ヶ2464-1	宅地造成 店舗造成	H.5.6.4 (延べ1日間)	616m <sup>2</sup>		弥生土器
3	伊勢領	三ヶ4013外	宅地造成	H.5.6.4 (延べ1日間)	991m <sup>2</sup>	散布地	
4	大江	大江504	資材置場 建設	H.5.6.4 (延べ1日間)	945m <sup>2</sup>		
5	黒河	黒河4739-1外4筆	店舗造成	H.5.8.18 (延べ1日間)	4,659m <sup>2</sup>		
計	1 遺跡 4 地点	延べ 5 日間	対象面積 約11,011m <sup>2</sup>				

第1表 分布調査一覧

## 3. 試掘調査

平成5年度、町教育委員会が実施した試掘調査は、県道改良工事の公共事業1件、民間事業3件の計4件であった。試掘調査の結果、本調査の必要があるものは2件であった。その内1件は6年度調査が予定されている。

No.	遺跡名	所 在 地	原 因	調査期間	対象面積	試掘面積	種 別	検出遺構	出土遺物	開発への対応
1	加茂社 (381028)	戸破字加茂2033	駐車場	H.5.4.17 (延べ1日間)	892m <sup>2</sup>	129m <sup>2</sup>	集落跡	穴・溝	須恵器・土師器 青磁・近世陶磁器・古銭	本調査必要
2	H S -04 (381006)	白石758	資材置き場	H.5.5.14～ 5.15 (延べ2日間)	8,834m <sup>2</sup>	850m <sup>2</sup>	散布地	穴・溝	弥生土器・須恵器・珠洲土師質土器	支障なし
3	丸山古墳 (381190)	青井谷1088-1外1筆 入会地字流清水9-1 外5筆	福利厚生施設建設	H.5.11.26～ 12.10 (延べ10日間)	3,000m <sup>2</sup>	106m <sup>2</sup>	古 墳			本調査必要
4	表 野 (381076)	黒河字表野128-1 外	県道改良	H.5.11.26～ 12.10 (延べ2日間)	1,250m <sup>2</sup>	104m <sup>2</sup>	散布地		須恵器 近世陶磁器	支障なし
計	4 遺跡	延べ 15 日間	対象面積 約13,976m <sup>2</sup>	試掘面積 約1,189m <sup>2</sup>						

第2表 試掘調査一覧

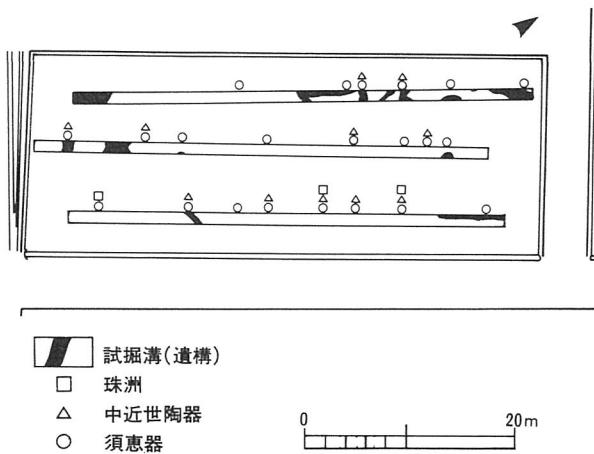
### 加茂社遺跡（No. 1）

遺跡は、標高約9mの平野部に立地する。下条川の右岸の微高地に位置し加茂社の西側に隣接する。

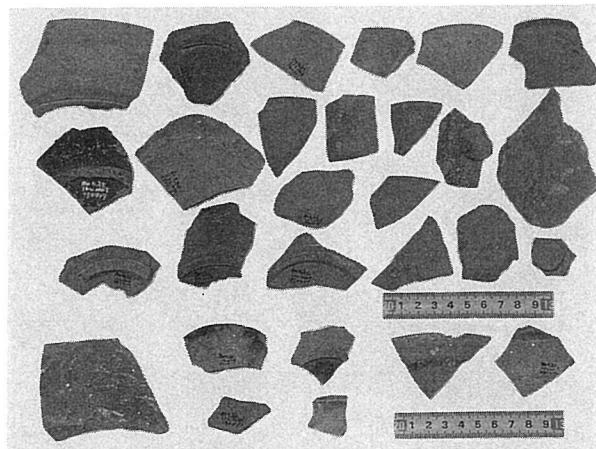
今回の試掘調査では、対象地全体から溝や穴などの遺構が検出された。遺物の年代は主に平安時代初めであるが、中・近世の遺物も含まれる。



第2図 位置図(1/10,000)



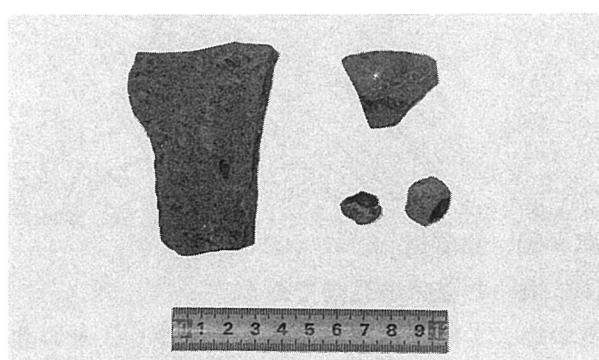
第3図 発掘区



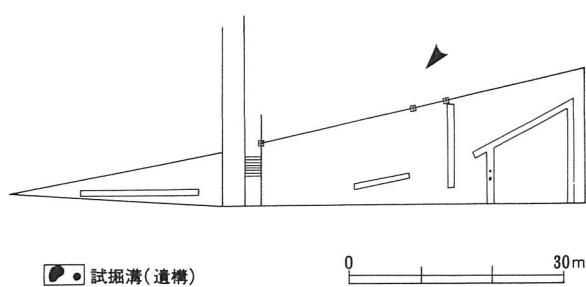
### 表野遺跡（No. 4）

遺跡は、標高約13~14mの射水丘陵端部の緩斜面地に立地している。昭和56年に県道建設工事に先立ち発掘調査が行われ、住居跡や炭焼窯などが検出されている。

今回の調査では小穴が3箇所確認された。遺物は須恵器片1点、近世陶磁器1点が確認された。



第4図 位置図(1/10,000)



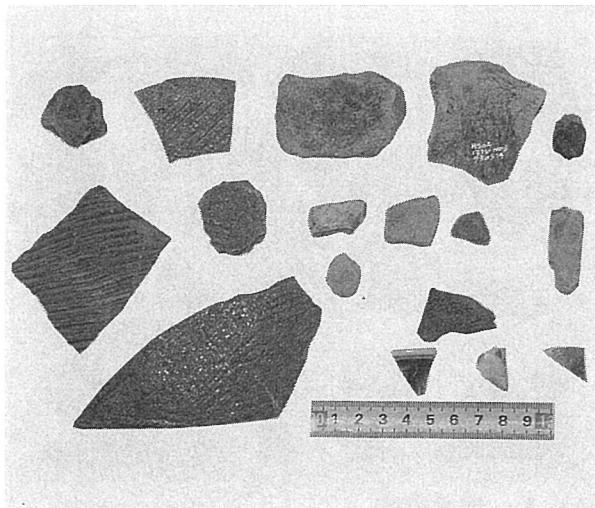
第5図 発掘区

### H S -04遺跡 (No. 2 )

遺跡は、射水平野のほぼ中央部標高約1.0mに位置する。

対象地周辺では、平成2～4年にかけて開発に先立つ発掘調査が実施され、弥生時代後期から古墳時代初めと中世を主な時代とする遺跡が広い範囲に点在することが確認されている。

今回の調査対象地は遺跡の希薄な部分であったと考えられる。



PL 3 出土遺物

### 丸山古墳 (No.3)

古墳は、小杉流通業務団地内遺跡群の南端に在り、標高約56mの丘陵の頂上に位置する。周辺には、山王古墳、宿屋古墳、五歩一古墳群、変電所西古墳、大塚古墳などがある。

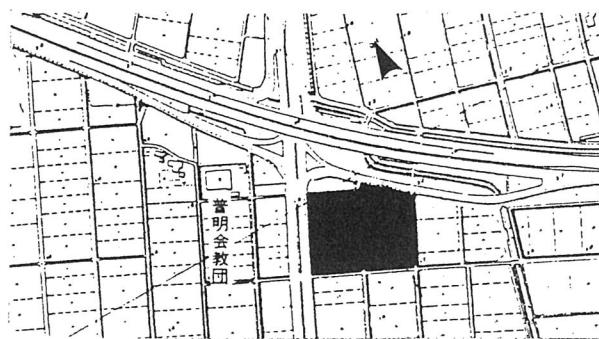
1号墳は、長軸（東西方向）で22m、短軸（南北方向）で18m規模の円墳である。なお墳丘の東側部分 $\frac{1}{3}$ が造成用地外へ続く。

2号墳は、長軸（東西方向）で12m、短軸（南北方向）で9m規模の円墳である。

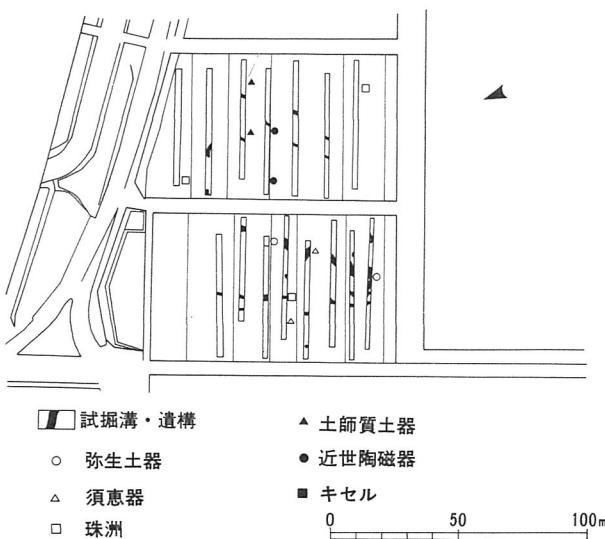
1号墳と2号墳の間に幅約1mの溝が南北方向にはしる。

1号礫集積遺構は、3m×3mの範囲に礫を集積し築いた塚状の遺構である。

2号礫集積遺構は、6m×6mの範囲に礫を敷きつめ、1箇所に塚状の高まりを造り、その北側では直径1mの土坑に礫を敷きつめている。



第6図 位置図(1/10,000)



第7図 発掘区



第8図 位置図(1/10,000)



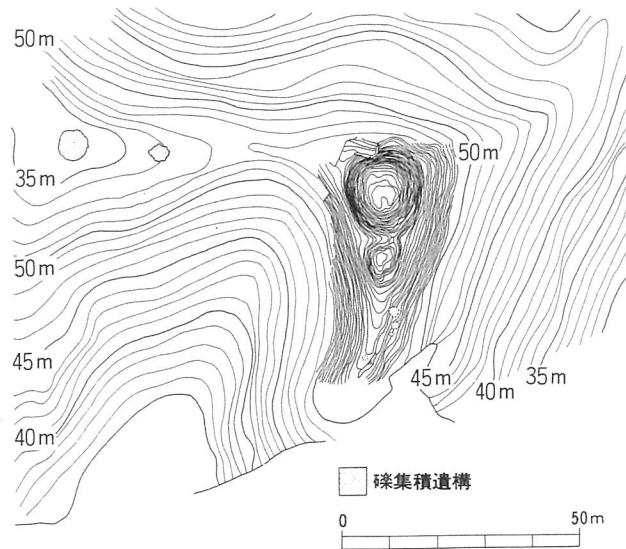
PL 4 古墳全景



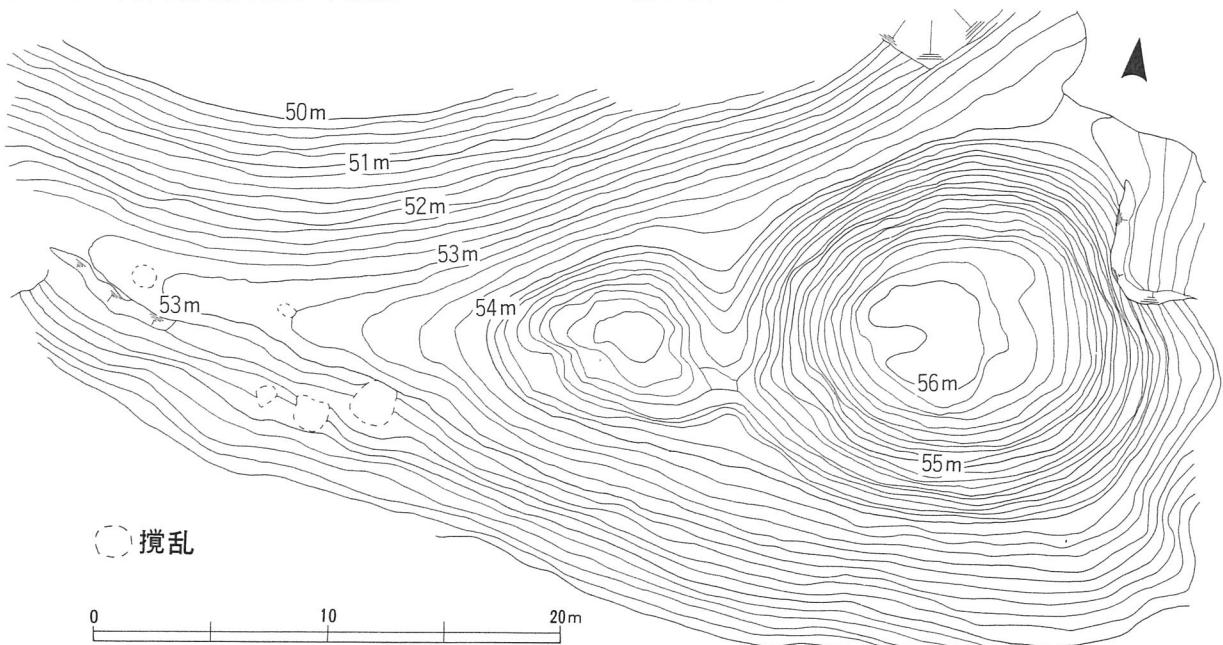
PL 5 磚集積遺構



PL 6 丸山古墳西側より遠景



第9図 古墳と周辺の地形



第10図 古墳測量図

## 4. 本 調 査

平成6年度小杉町教育委員会で実施した本調査は、昨年度に引き続き小杉インターパーク関係のほか、県道改良工事2件、民間事業1件であった。

No.	遺跡名	所 在 地	原 因	調査期間	調査面積	検出遺構	出土遺物
1	小杉伊勢領 (381027)	三ヶ2237外	宅地造成	H.5.3.8～ 4.28 (延べ37日間)	約 666m <sup>2</sup> ◎	溝10条・井戸10基 穴10基・ピット数基	縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器 陶磁器・土錐
2	水蔵場G (381214)	入会地字水蔵場144-1 外	工場用地造成	H.5.5.12～ 7.15 (延べ28日間)	約2,300m <sup>2</sup>	溝3条・穴8基	須恵器・土師器
3	水蔵場H (381215)	入会地字水蔵場141-1 外	工場用地造成	H.5.5.21～ 9.16 (延べ79日間)	約2,660m <sup>2</sup>	炭焼窯6基・溝1条 焼壁穴3基・穴4基 製鉄炉1基	土師器・鉄滓
	天池C-I (381216)	入会地字天池	工場用地造成	H.5.4.5～ 5.21 (延べ24日間)	約 300m <sup>2</sup>	須恵器窯1基	須恵器
4	天池C-II (381216)	入会地字天池	工場用地造成	H.5.4.5～ 5.21 (延べ 6 日間)	約 470m <sup>2</sup>	炭焼窯1基・穴1基 焼壁穴1基	須恵器・土師器 鉄滓
	天池C-IV (381216)	入会地字天池	工場用地造成	H.5.4.5～ 5.18 (延べ24日間)	約 680m <sup>2</sup>	炭焼窯3基	鉄滓
5	東山II (381073)	黒河字金屎4933-3外	県道改良	H.5.6.1～ 9.21 (延べ67日間)	約2,090m <sup>2</sup> ◎	炭焼窯7基 焼壁穴1基・溝2条 製鉄炉1基 穴3基・ピット数基	鉄滓・炉壁 須恵器・土師器
6	鷺塚村中 (381010)	鷺塚村中652 外	県道改良	H.5.7.1～ 11.25 (延べ97日間)	約3,120m <sup>2</sup>	井戸20基・溝43条 穴74基・ピット9基	弥生土器・須恵器 珠洲・土師皿 木製品
計	6 遺跡	延べ362日間	調査面積約12,286m <sup>2</sup>	◎印は山武考古学研究所の調査協力を得て調査したもの			

第3表 本調査一覧

### 鷺塚村中遺跡 (No. 6)

一般地方道小杉本江線改良工事に先立ち本調査を実施した。調査区は、標高約2mで、東側の集落に向かって高くなる。

A地区から検出された遺構は、溝・穴である。出土遺物は弥生土器が中心であるが、北端で検出した溝から珠洲が1点出土した。

B地区の遺構・出土遺物の年代は弥生時代から近世である。弥生時代の遺構と中世・近世の遺構はほぼ同一面で確認された。B地区の東側は一段高く、弥生時代の遺構・遺物が集中して



第11図 位置図(1/10,000)

いる。耕作土にも多量の弥生土器片が含まれていた。調査区西側では中近世の井戸・溝がまとまって検出されている。井戸の種類は、素掘り井戸のほか曲物を用いた井戸が1基、桶を転用した井戸1基が検出された。近世の上水道施設と考えられる桶と竹を組み合わせた遺構も確認された。

C地区は流れ込みによる弥生土器が散布しており、そこに中世の遺構が造られている。検出された遺構は土坑・溝・井戸である。溝からは自然木に混じって下駄や漆器碗が出土した。井戸は素掘り井戸のほか曲物を用いた井戸と木枠を組み、その外側を竹や簿板で囲んだ井戸を検出した。井戸からは数点の木製品が出土した。



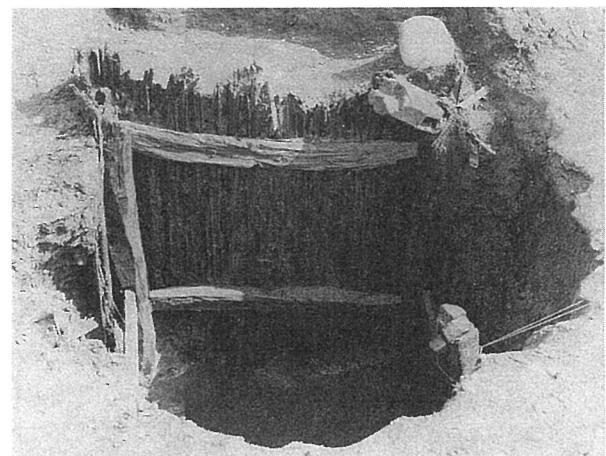
PL 7 遺物出土状況



PL 8 井戸出土状況



PL 9 出土遺物



PL 10 井戸出土状況

A地区

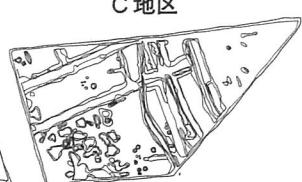


0 50m

B地区



C地区



第12図 遺構配置図

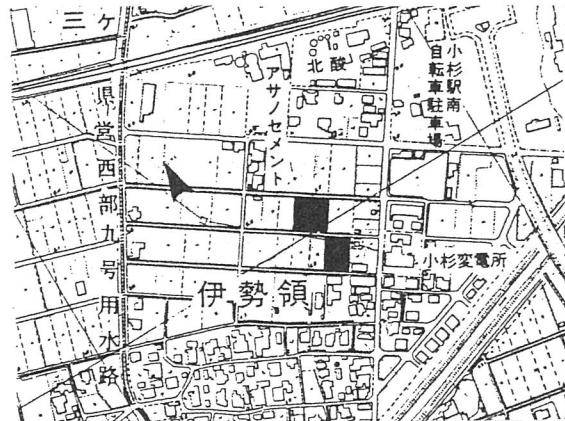
## 小杉伊勢領遺跡（No. 1）

本遺跡は、下条川左岸から南へ100mの標高4.5mの平野に立地するが、河川改修工事以前は下条川の縁辺の微高地上に位置していた。

昭和59年より、宅地造成等に伴い試掘調査が行われ、平成3年より本調査が行われている。本年度の調査において確認された遺構は、これまでの調査で確認された遺構につながり、出土遺物の年代も同じで、縄文・弥生が中心であった。



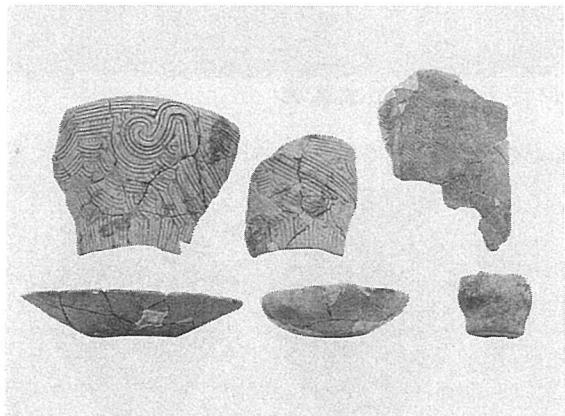
P L11 遺物出土状況



第13図 位置図(1/10,000)



P L12 遺物出土状況



P L13 出土遺物

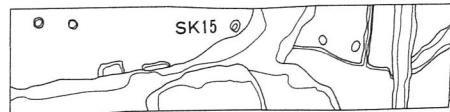
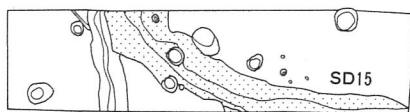
X30  
Y70

■ 縄文時代

■ 弥生時代

X30  
Y50

SK21  
SK25  
SD22  
SE13  
SE24



0 10m

第14図 遺構配置図

## 水蔵場G (No. 2)・水蔵場H遺跡 (No. 3)

水蔵場G・H遺跡は、天池C遺跡の南西に位置し、北西に延びる谷筋の西側斜面上にある。

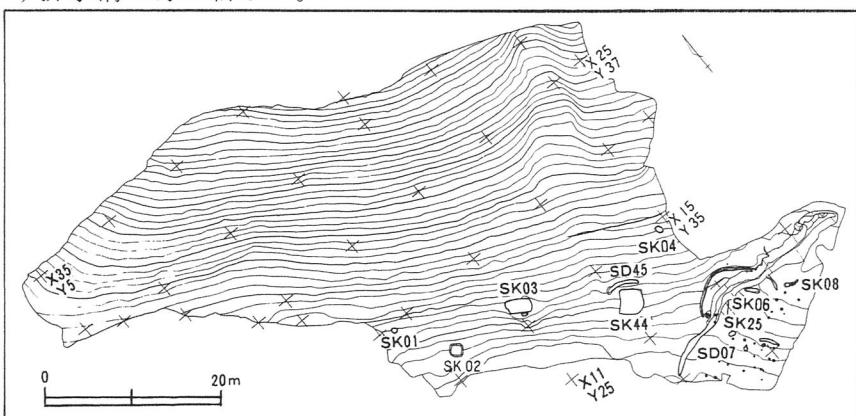
水蔵場G遺跡は、標高28~38mの丘陵上に位置する。遺構・遺物は、調査区東南に集中して検出された。採集遺物のなかには天池C遺跡の須恵器片と接合したものがあった。

水蔵場H遺跡は、標高30~38mの丘陵上に位置する。検出された炭窯6基のうち2基は等高線に交わるように構築されているが、ほかの3基は、等高線に斜めに交わるように構築され、そのうちの1基はかなり窯体が湾曲している。

残る1基は等高線にほぼ平行に構築されており、甕が奥壁煙出しと側壁煙出しに伏せられている。前庭部を共有する窯が1基ある。製鉄炉は南側が調査区外へ伸びており全体を確認することはできなかったが、採集した鉄滓から箱形製鉄炉ではないかと考えられる。この製鉄炉を取り巻くように深さ約1mの排水溝が確認された。この排水溝と前庭部が重なる炭窯があったが製鉄炉に伴う排水溝の方が新しい。



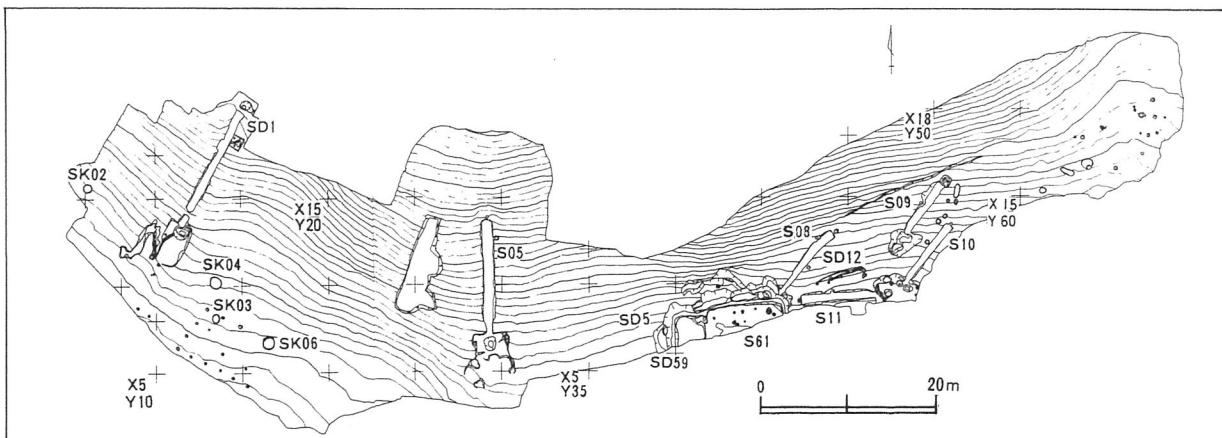
P L14 作業風景



第15図 水蔵場G遺跡遺構配置図



第16図 位置図(1/10,000)



第17図 水蔵場H遺跡遺構配置図

### 天池C遺跡（No.4）I地区・II地区・IV地区

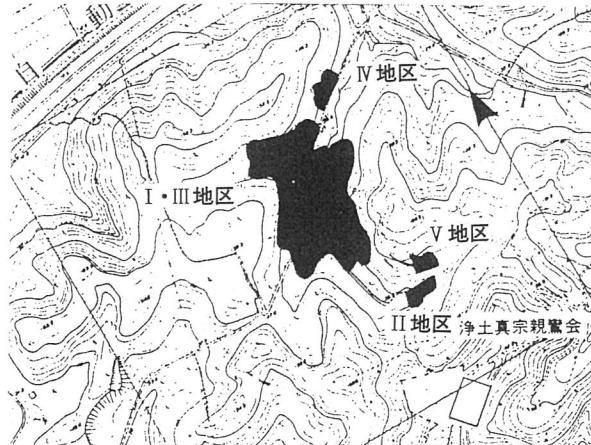
本遺跡は射水丘陵中に位置する。それぞれの地区は、北東に延びる谷筋の斜面に立地し、標高は約25~45mである。

#### I地区

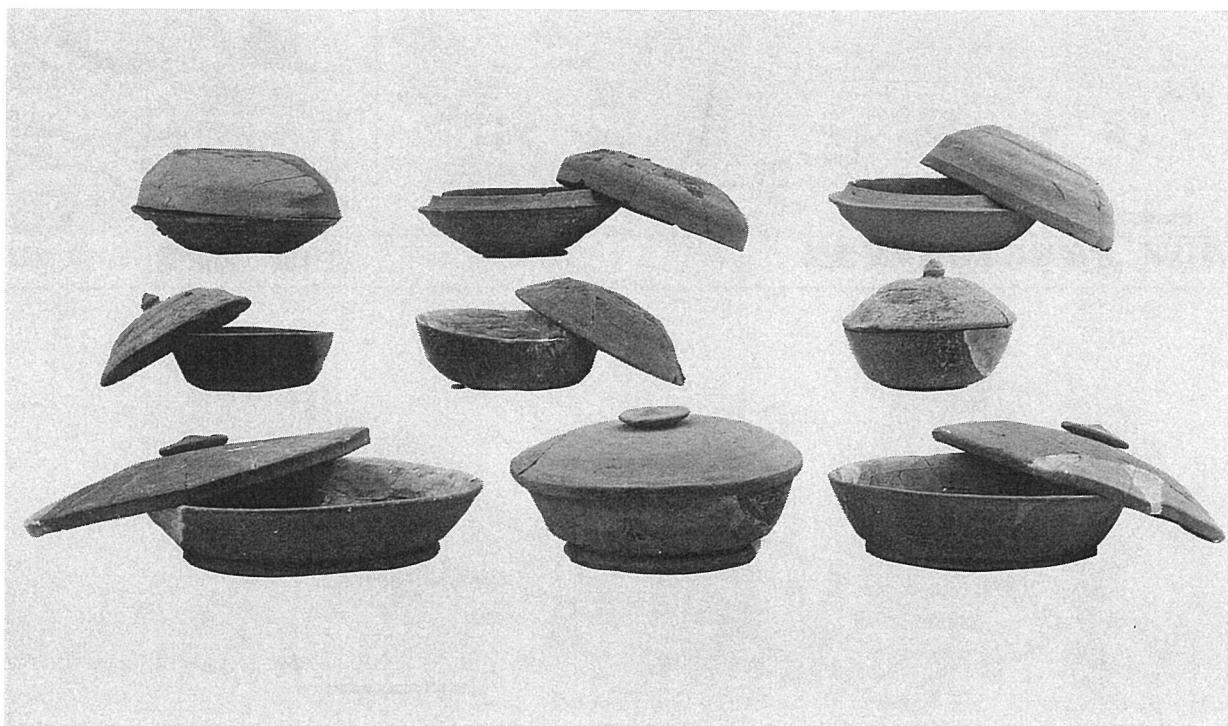
I地区は昨年に引き続き須恵器窯を調査した。7世紀初めから前半にかけての須恵器窯が廃絶された後、8世紀初めにそれをを利用して須恵器窯が構築されている。その後、須恵器窯の先端部より尾根上方に向って地下式炭窯が造られている。須恵器の窯はいずれの床面も、側壁も良く焼けている。窯体は全長約9m・最大幅約1.8m・最大傾斜度約26度を測る。規模は、どちらの窯もほぼ同一と考えられる。古い窯の焚き口部分には細長い舟底状ピットが認められた。前庭部は地山を掘り込み黄褐色の粘質土を入れ、床面を構築している。平面図は、ほぼ円形に近い形である。

#### IV地区

IV地区からは、地下式炭窯2基、半地下式炭窯1基が検出された。地下式炭窯のうちの1基は4回床面を貼り替えている。残る1基は、初めに構築した窯の廃絶後、その先端から更に窯体を2m程先へ延長して重複した床面のみ貼りかえている。



第18図 位置図(1/10,000)



PL15 S-21・S-22 出土遺物 上・中段(7世紀初めから前半、S-22) 下段(8世紀初め頃、S-21)



第19図 7世紀初めから前半にかけての須恵器窯

## 東山II遺跡（No.5）

本遺跡は、射水丘陵の北端部に位置し標高は15~22mである。昭和57年に県道建設に先立ち一部本調査が行われ、平成元年・2・3年には店舗建設に先立って調査が行われた。

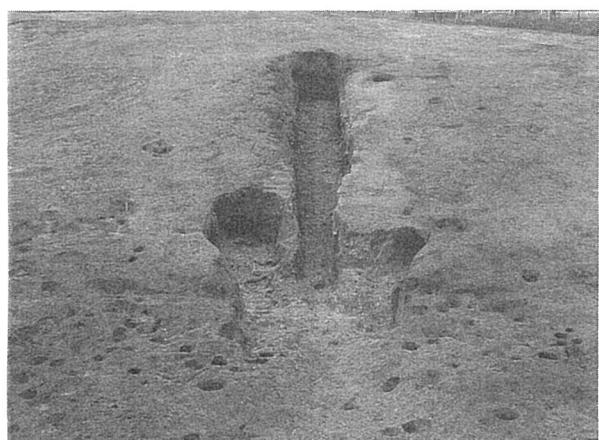
北区と南区より検出された炭窯は、いずれも等高線に直交するように構築されているが、煙り出しに掘り方を伴うタイプと窯体との距離があるタイプの2種類認められた。製鉄炉は北区から3基の箱形製鉄炉が検出された。



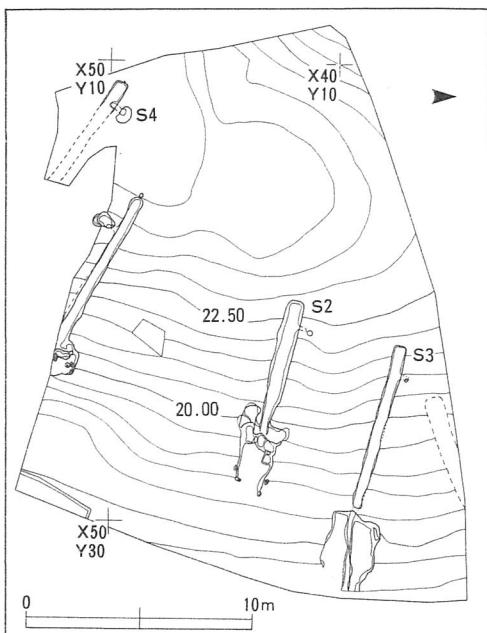
第20図 位置図(1/10,000)



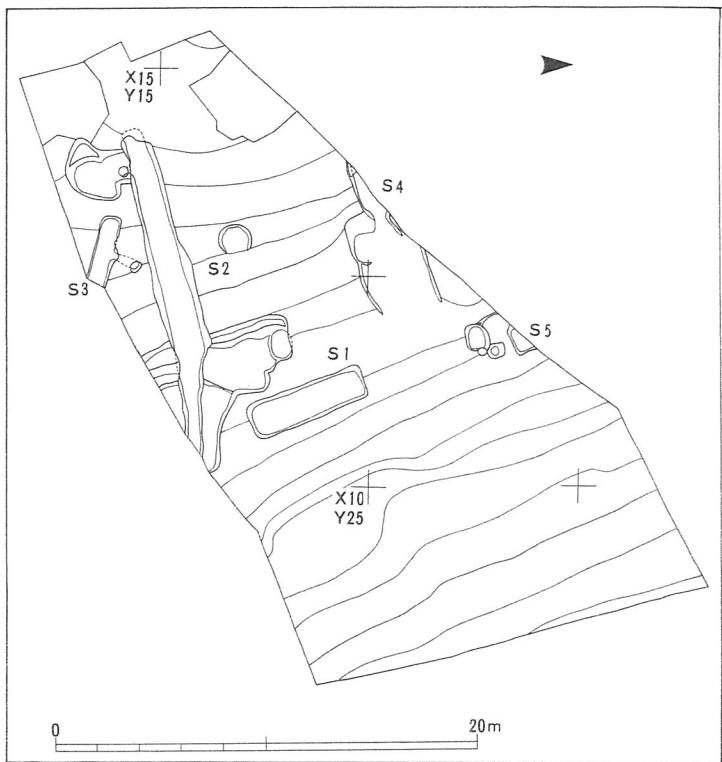
PL 16 炭窯



PL 17 炭窯



第21図 南区遺構配置図



第22図 北区遺構配置図



P L 18 水蔵場G遺跡遺物出土状況



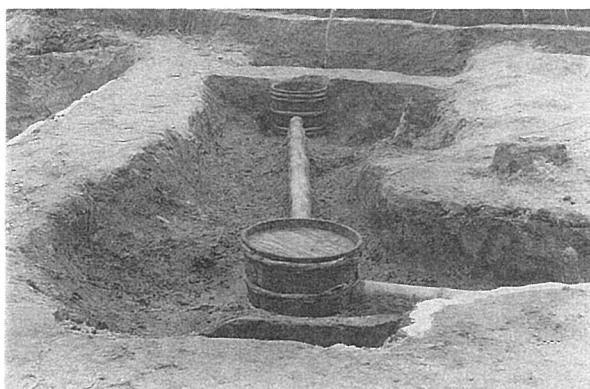
P L 19 水蔵場G遺跡遺物出土状況



P L 20 水蔵場H遺跡炭窯



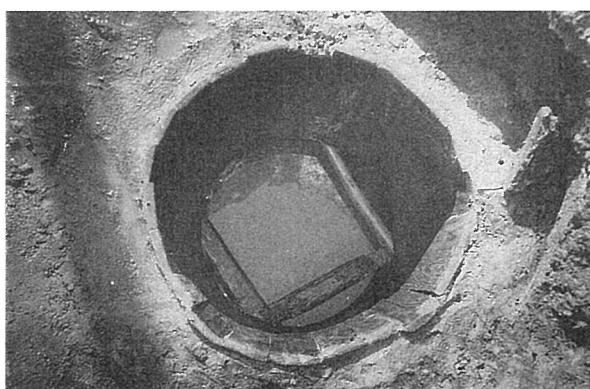
P L 21 水蔵場H遺跡製鉄炉を周る排水溝



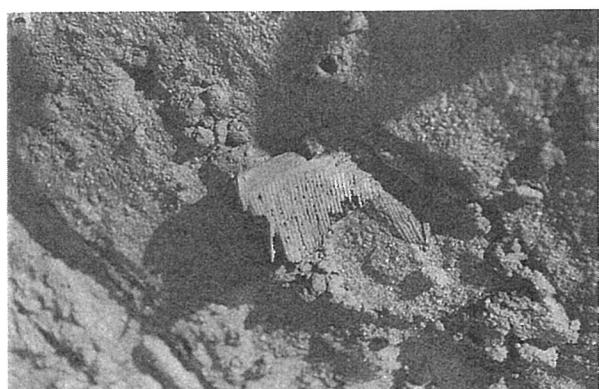
P L 22 驚塚村中遺跡上水道施設出土状況



P L 23 驚塚村中遺跡上水道施設出土状況



P L 24 驚塚村中遺跡井戸出土状況



P L 25 驚塚村中遺跡櫛出土状況

## 5. 普及・活用

### (1) 整理室（太閤山小学校）の見学

整理室では、平成2年に調査を行った赤坂C遺跡の須恵器窯から出土した須恵器の復元・実測・写真撮影、平成4年から引き続いて調査を行った天池C遺跡の須恵器窯より出土した須恵器の復元を中心に報告書刊行に伴う作業を行った。

また、今年度調査を実施した小杉伊勢領遺跡、水蔵場G・H遺跡、鷺塚村中遺跡から出土した遺物の水洗い、注記作業と器種分類作業を終え、復元作業を行いながら、一部図面作成を行った。

整理室には次の見学があった。4月15日(木)富山県文化振興財団調査員の見学(3人)。4月28日(水)大門町教育委員会事務局員の見学。5月12日(木)橋下条小学校生徒の見学。5月19日(木)町議会・文教厚生委員の見学。5月27日(木)小杉中学校生徒の見学(4人)。6月8日(火)歌の森小学校生徒の見学(70人)。10月1日(金)町民バス参加者の見学(30人)。10月13日(水)中太閤山小学校6年生の見学(3クラス)。

### (2) 展示

小杉町民展示館において10月23日から11月14日にかけて「ミニ考古学展と小杉の陶芸展」を開催した。1階展示室では陶芸展を行い、2階常設展示室(60m<sup>2</sup>)で考古展を行った。展示内容は、平成4～5年にかけて発掘調査した天池C遺跡の須恵器を中心に構成した。その他、小杉伊勢領遺跡の縄文土器、小杉伊勢領遺跡・針原東遺跡・白石遺跡の弥生土器などを展示した。各調査遺跡の文字パネル10点・写真パネル7点、射水丘陵の各時代の遺跡分布図6点、年表4点を説明に用いた。

### (3) 報告書等の刊行

1994年3月に小杉町教育委員会が刊行するものは以下のとおりである。

『白石遺跡発掘調査報告』(A4版P100、図版18) 山武考古学研究所の協力

『針原東遺跡発掘調査報告』(A4版P153、図版53) 山武考古学研究所の協力

『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧1993年度』(B5版P14)



PL 26 展示の様子



PL 27 展示の様子

# 小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧

## 1993年度

---

平成6年3月25日発行

編集 小杉町教育委員会  
発行 富山県射水郡小杉町戸破1511  
〒939-03 電話(0766)56-1511

印刷 日興印刷株式会社

---

